

令和2年7月28日

羽曳野市長 山入端 創 様

羽曳野市立図書館協議会
会長 上野 良子

図書館正規司書職員の新規採用を求める意見書（案）

～市民生活の未来を支える図書館をめざして～

私ども図書館協議会は、長年、羽曳野市の図書館活動の充実と発展を願って、図書館活動について真摯に協議し、意見を述べ、提言もさせていただいてきました。

図書館は、教育・健康・子育てなど生活の全てにおいて役立ち、すべての世代が利用できる施設です。

現在、羽曳野市立図書館は、貸出実績等は府内の平均実績を上回っており、小・中学校の学校図書館、幼稚園・保育園、家庭文庫や子育て支援施設などの読書活動に対し、様々な支援を行い、子ども読書活動の推進においては高い成果を上げていると評価しています。

しかし、近年ではさらに、ビジネス支援、法情報・医療健康情報の提供等の成人対象のサービス、認知症対象者も含めた高齢者支援サービス等の全世代対象の新しい図書館サービスが求められています。地域の課題解決のため、他部局との連携、民間企業も含め、ボランティア団体等との地域連携も強く求められています。様々な機関との連携や、新しい図書館サービスの企画等は正規司書職員でなければ対応出来ない仕事です。

羽曳野市の正規司書職員の人数は現在4名と、他市と比較しても極端に少なく、そのため、新しい図書館サービスに着手できておりません。このことが、添付した河内長野市の図書館事業との差を生み出していると考えられます。

図書館協議会では、10年以上前から正規司書職員の配置増を求める意見が多く出されてきましたが、新たな正規司書職員が採用されることなく、現在に至っています。しかも、現在の正規司書職員の3名は、1～3年のうちに定年退職を迎えると聞いています。正規司書職員のない図書館は単なる無料貸本屋になってしまうのではと危惧しています。

羽曳野市立図書館が、ひとりひとりの市民が健康で豊かな人生をおくることを支援し、未来の市民生活を支える図書館として発展していくために、**現司書職員が在職中にその知識と運営経験を引き継げるよう、早急に正規司書職員の採用と増員をさせていただきますよう、協議会委員一同、心から要望いたします。**

以上